



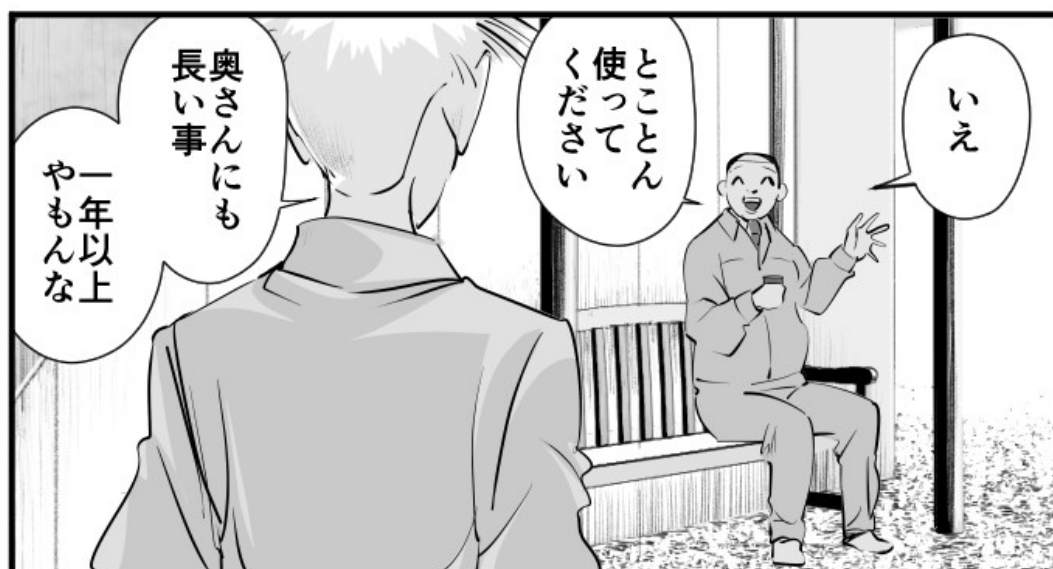
「彼もつとが
には言え
た夏。」

夫に言えない

チャイムが鳴る。
ドアの前に
彼が立っていた。
夫は単身赴任中。

夫に言えない「もっと」が彼には言えた夏。









ごめんね
仕事中に



あれ

大事なものが
なあって…



大丈夫
休憩中だし

あ
ホント?

机に
封筒が
あったから

あー
あれ？

もう
済んだし

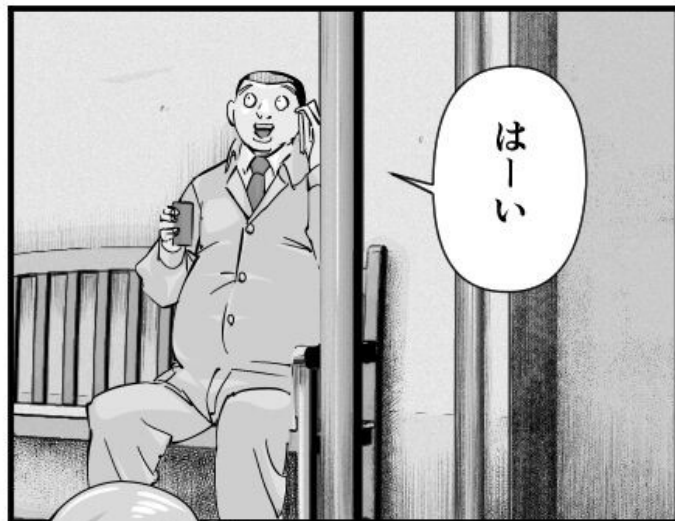
健康診断の
お知らせだよ

捨てても
大丈夫だよ





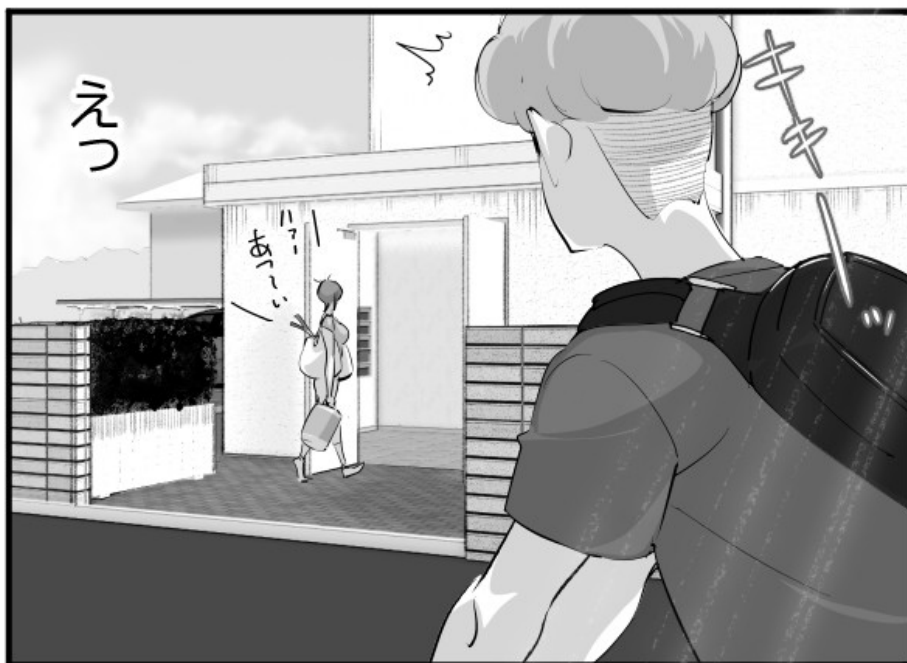
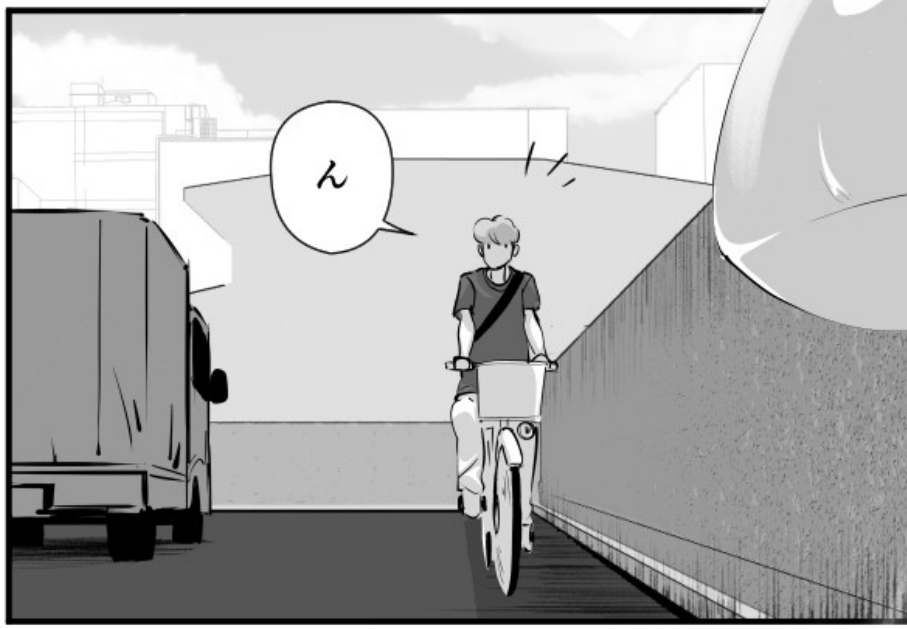


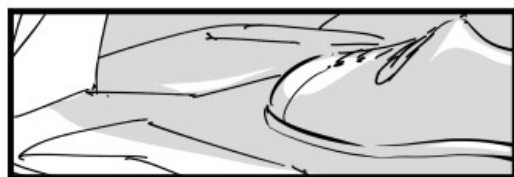
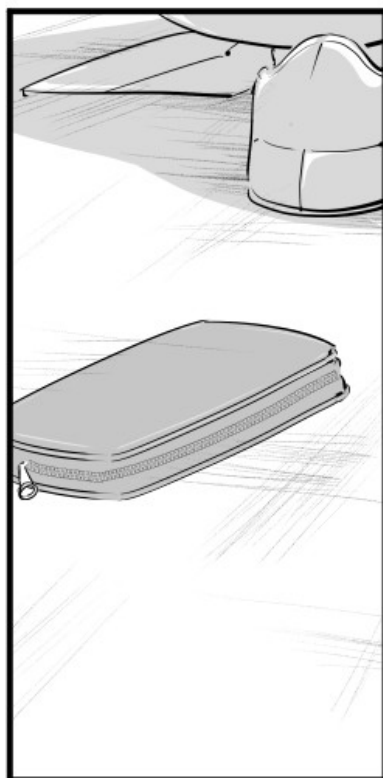
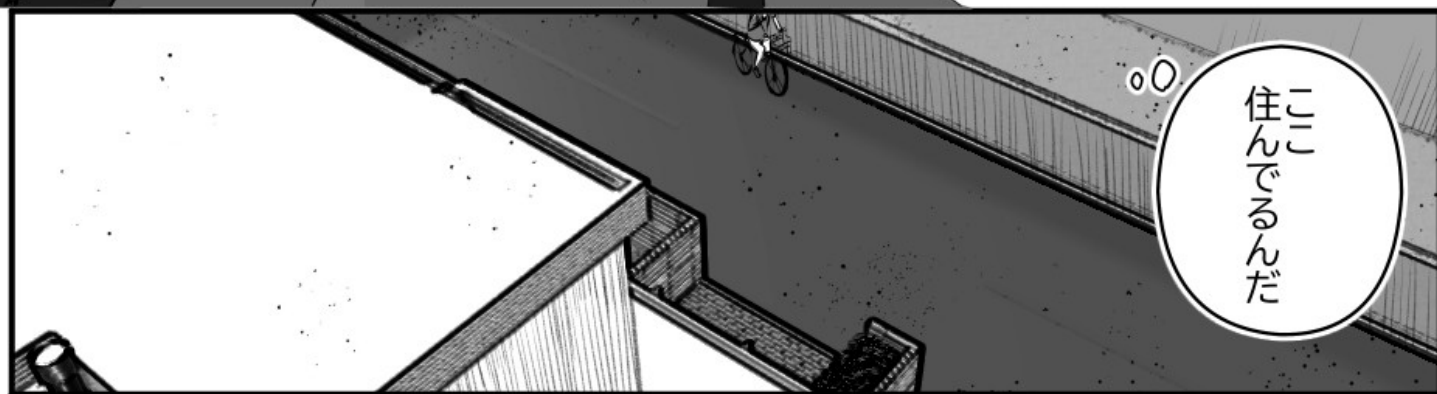


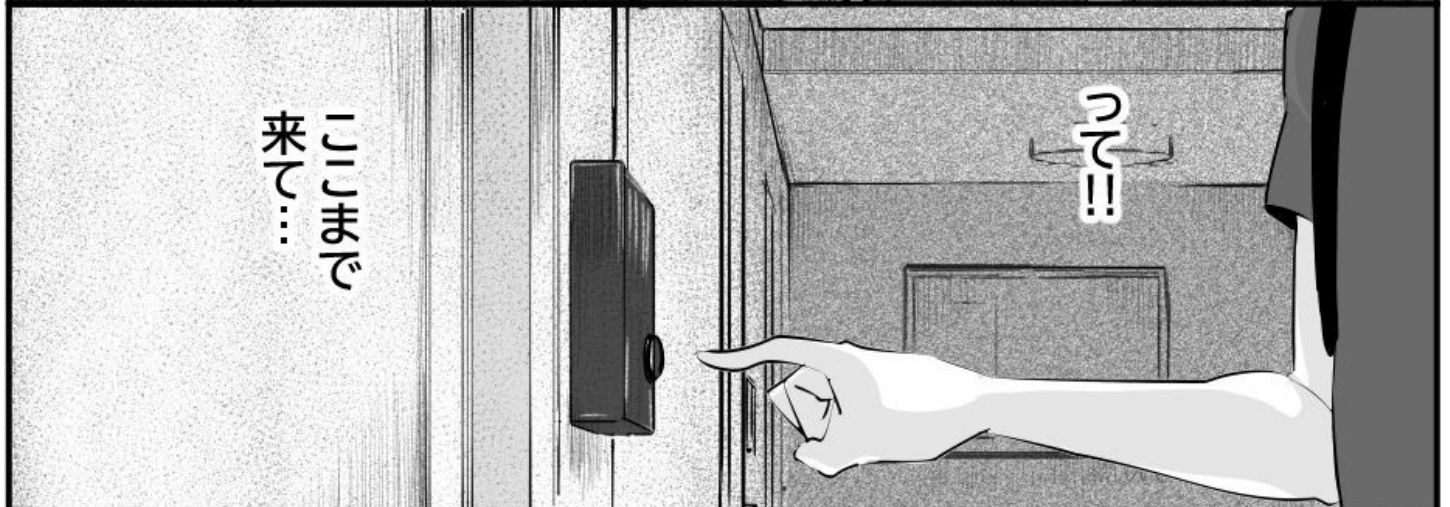








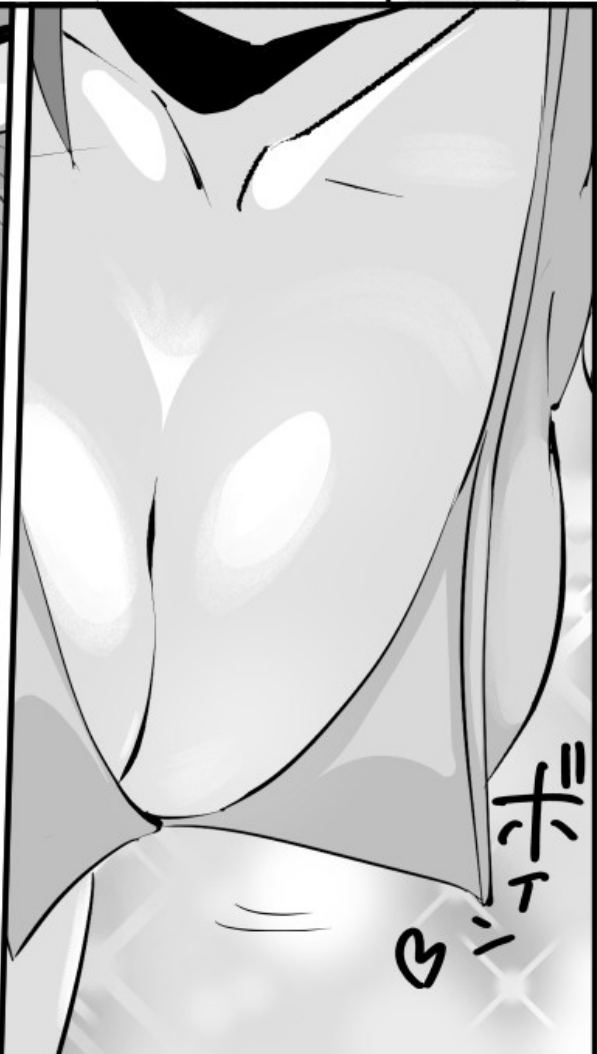
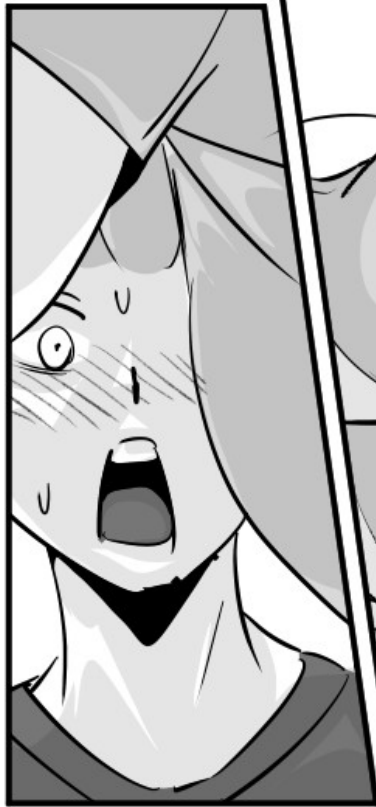


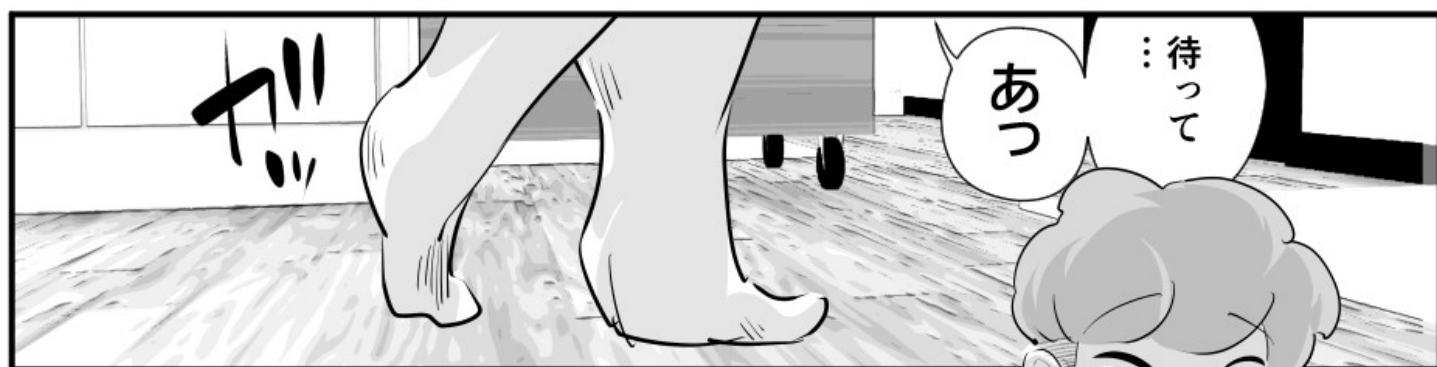






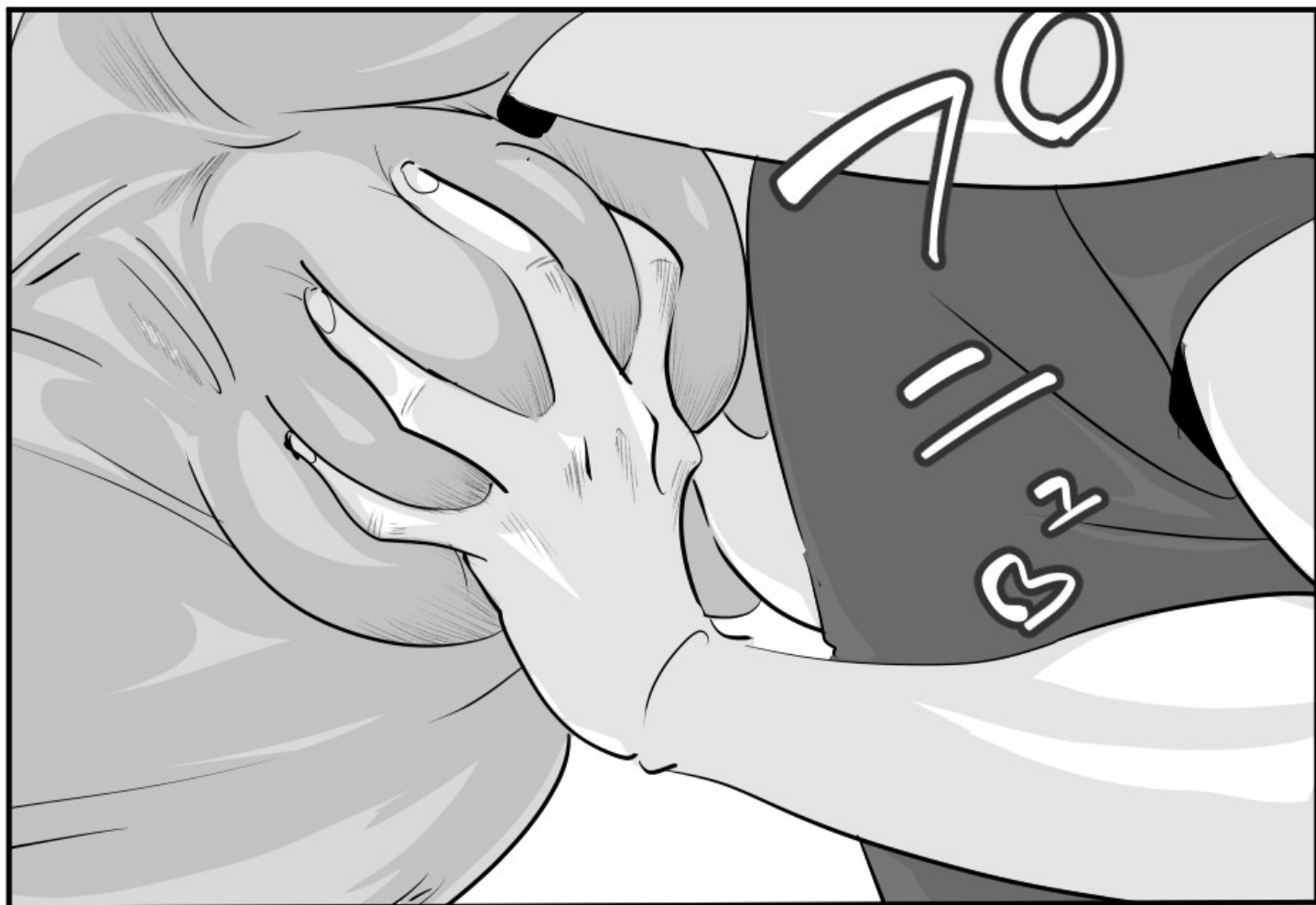






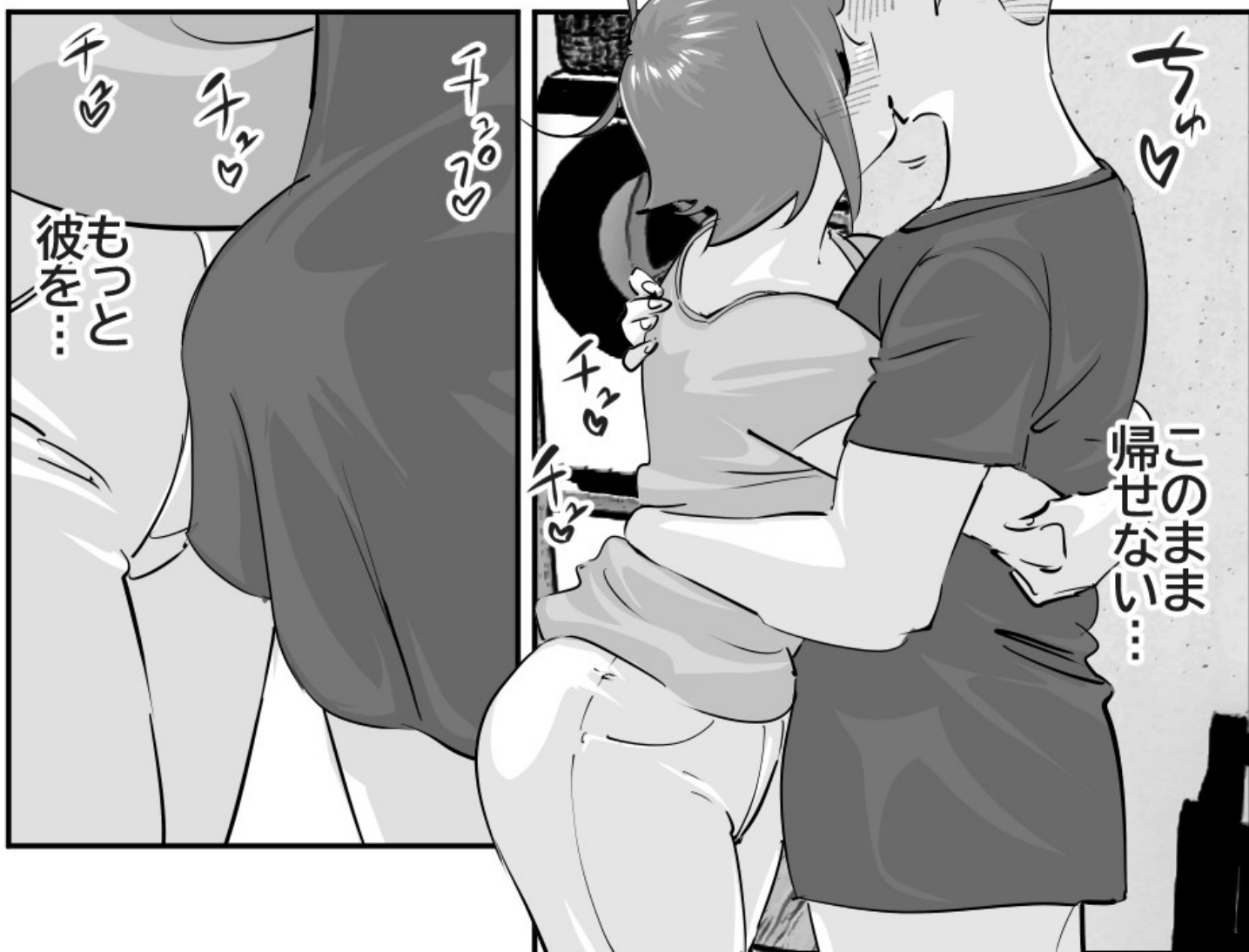


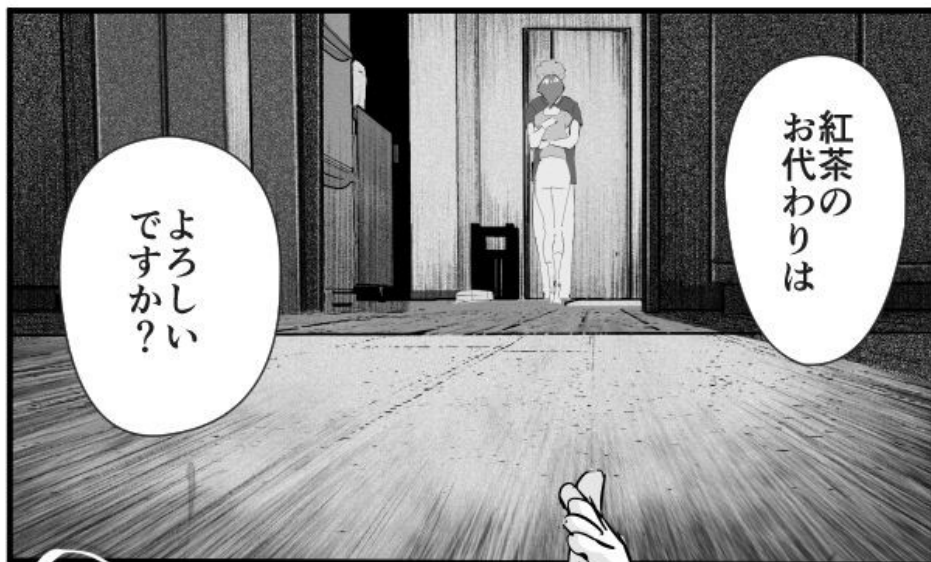












よろしい
ですか？

紅茶の
お代わりは



た...ら...



あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

いわゆる
「常連さん」

だけど
私に
っては…





彼が
胃薬を
買いに来た日

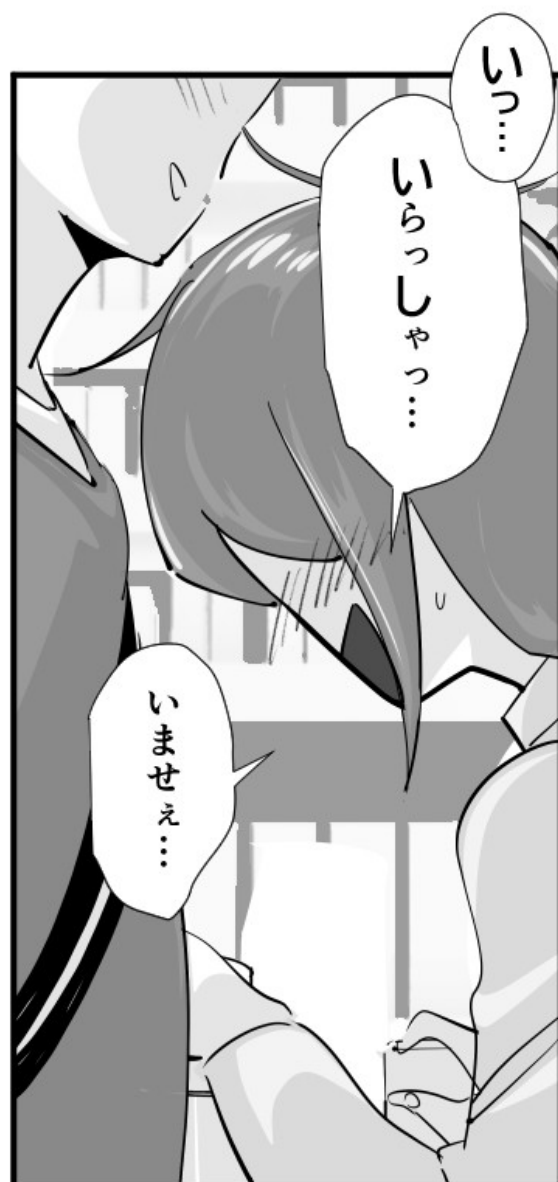
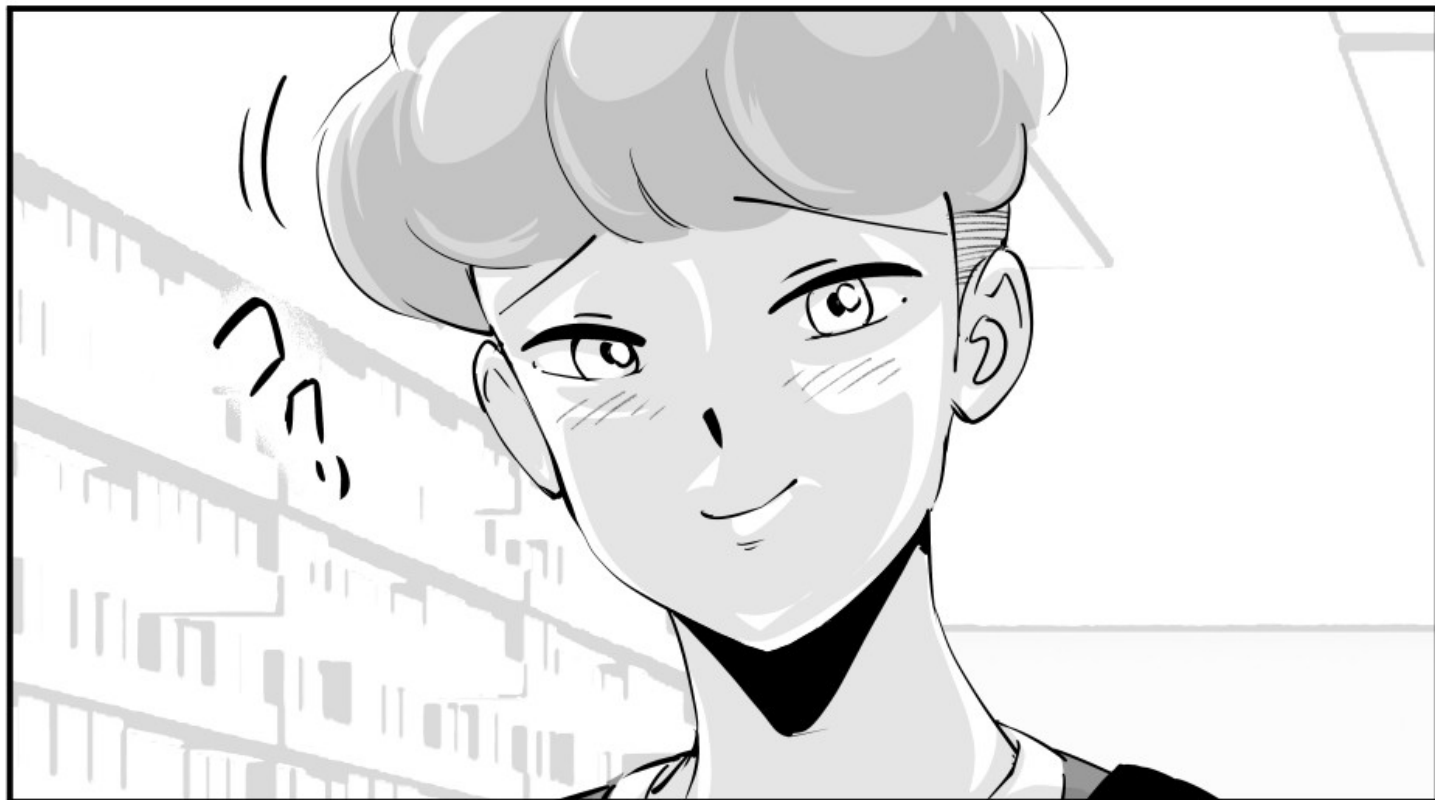
おかゆも
一緒に
ご案内しました

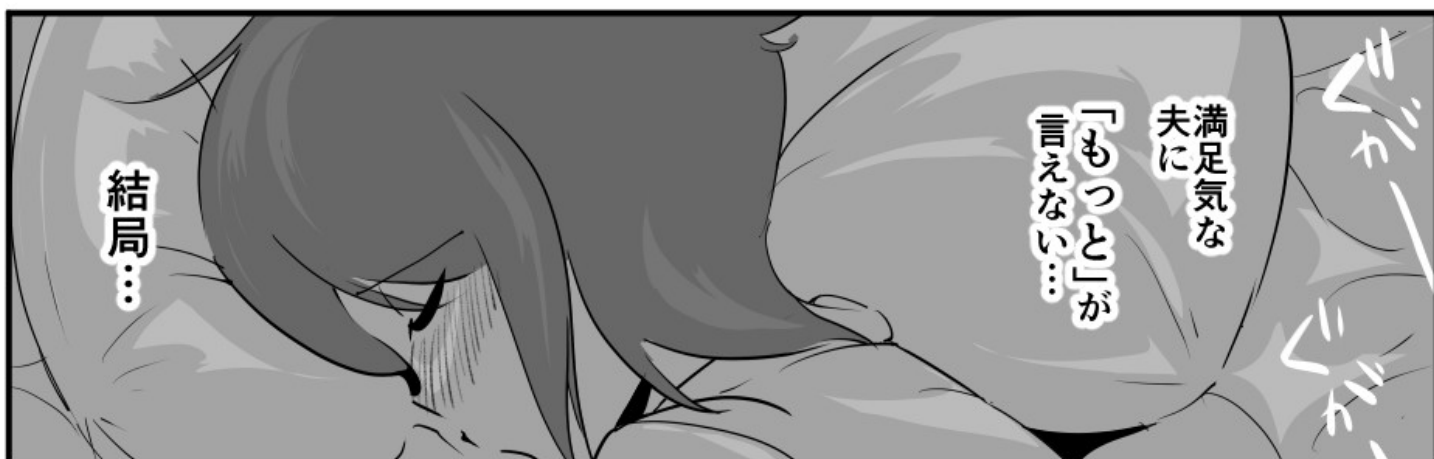
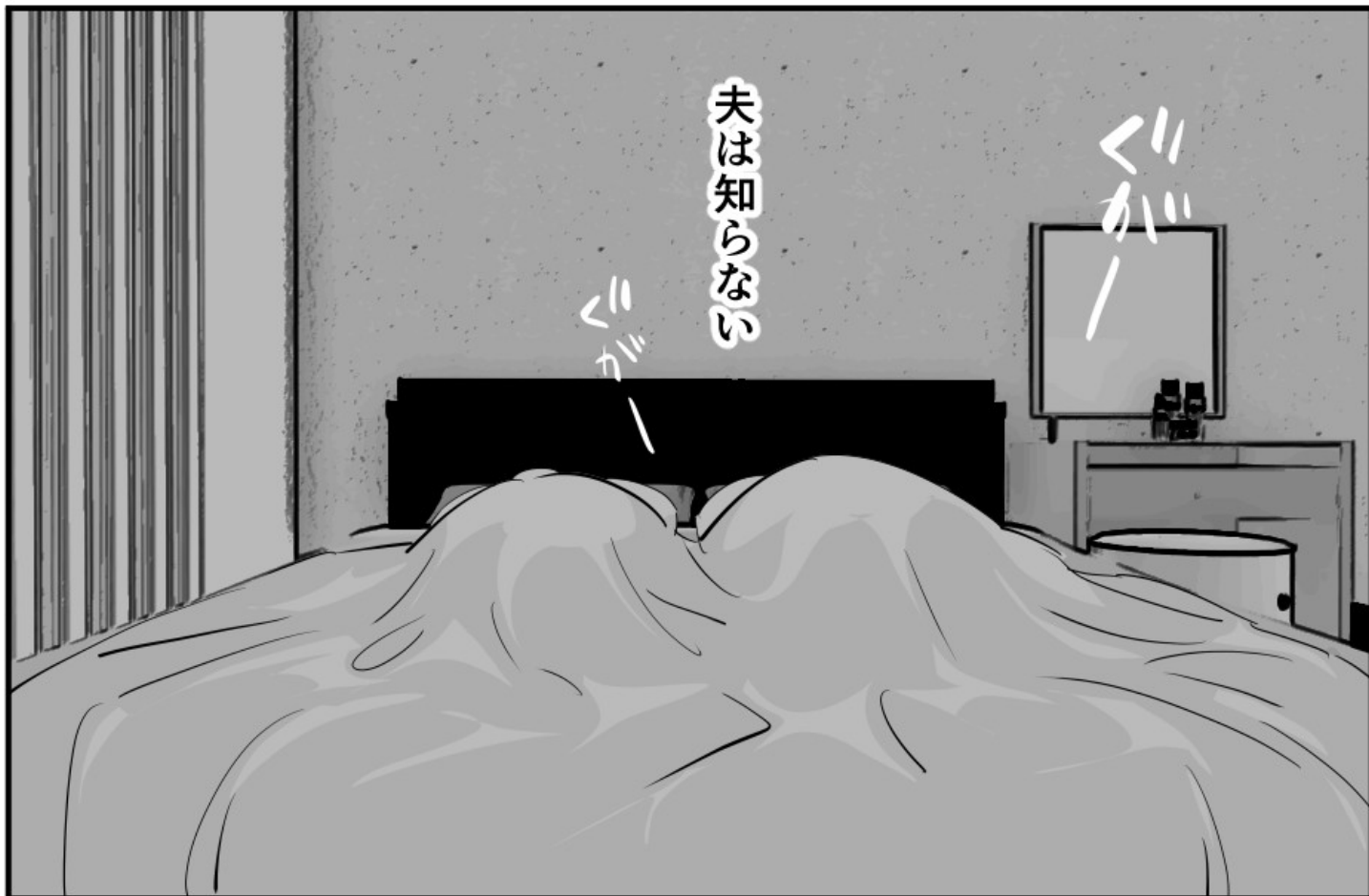
この辺りに
あります







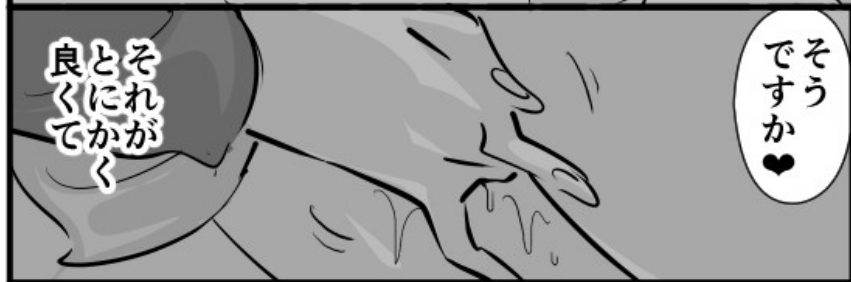






思い浮かべるのは

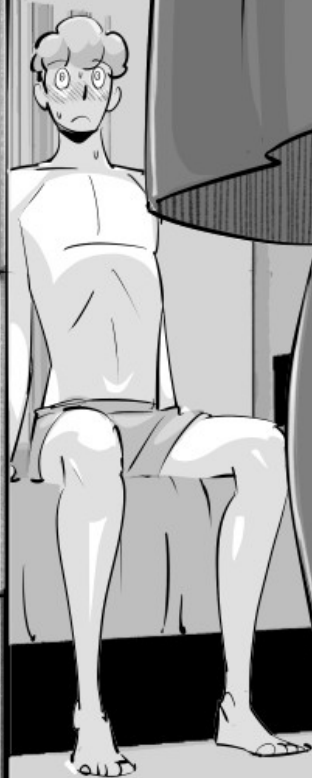
今日もひとりで...





すみません

夫に「もっと」が
言えない私







おばさん
っぽい...

ですかね...

ちよつと...

は!?



えっ…

いえっ

そんな事
決して…

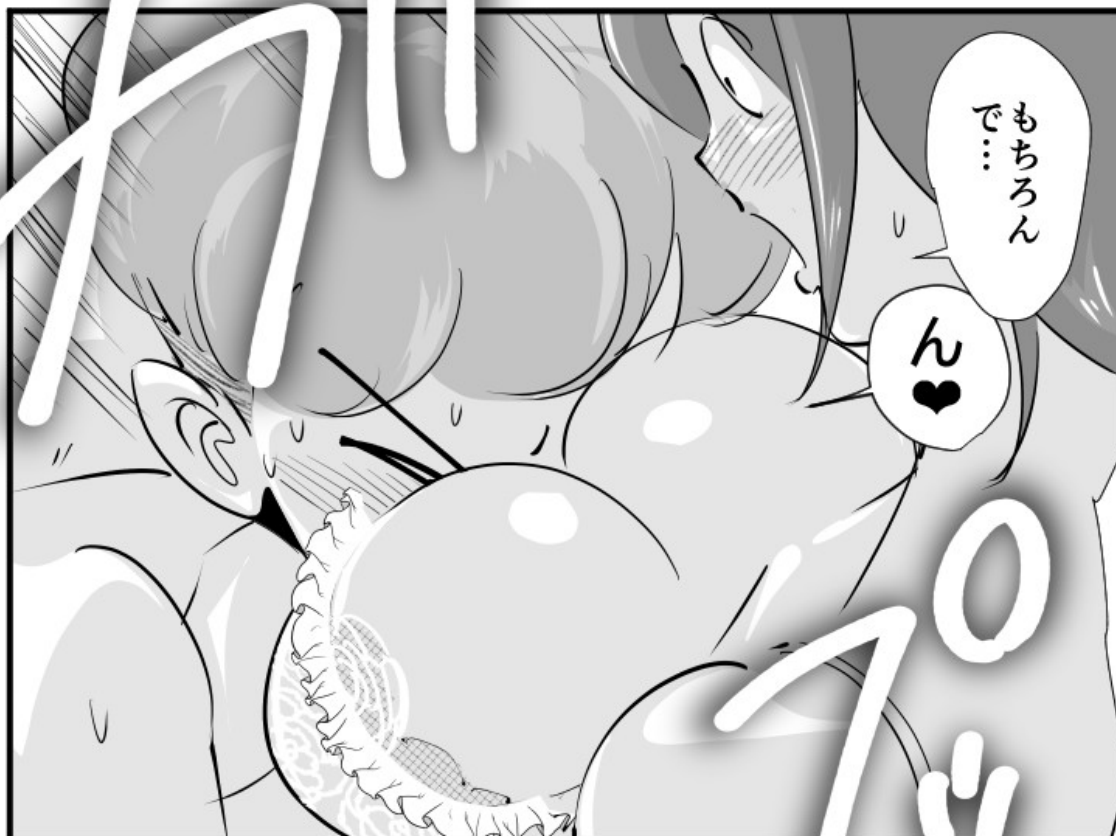
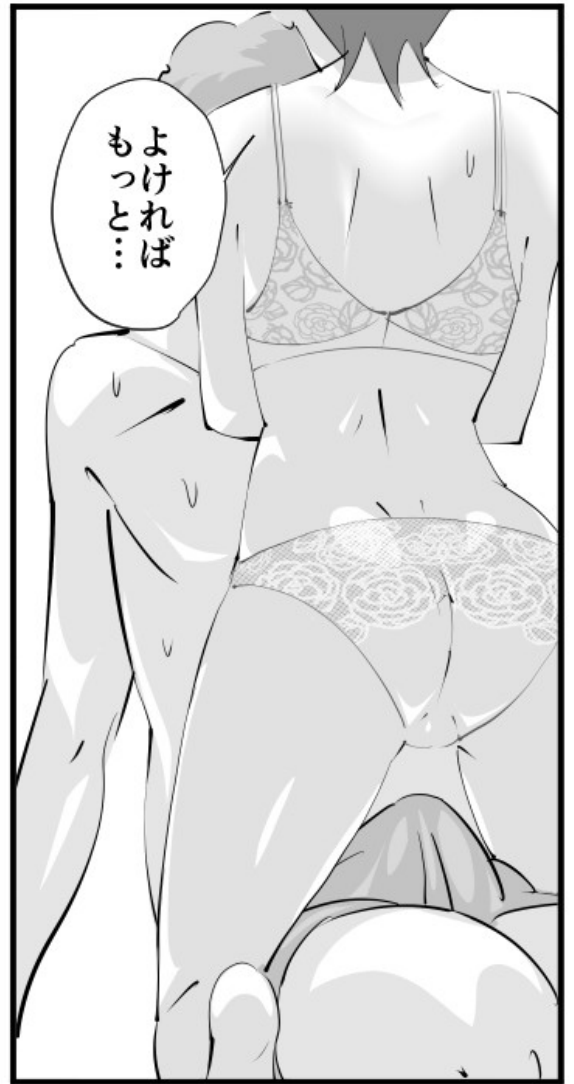
ほい

本当…
ですか？

お礼も
まだ…

不十分
ですし

ハサッ







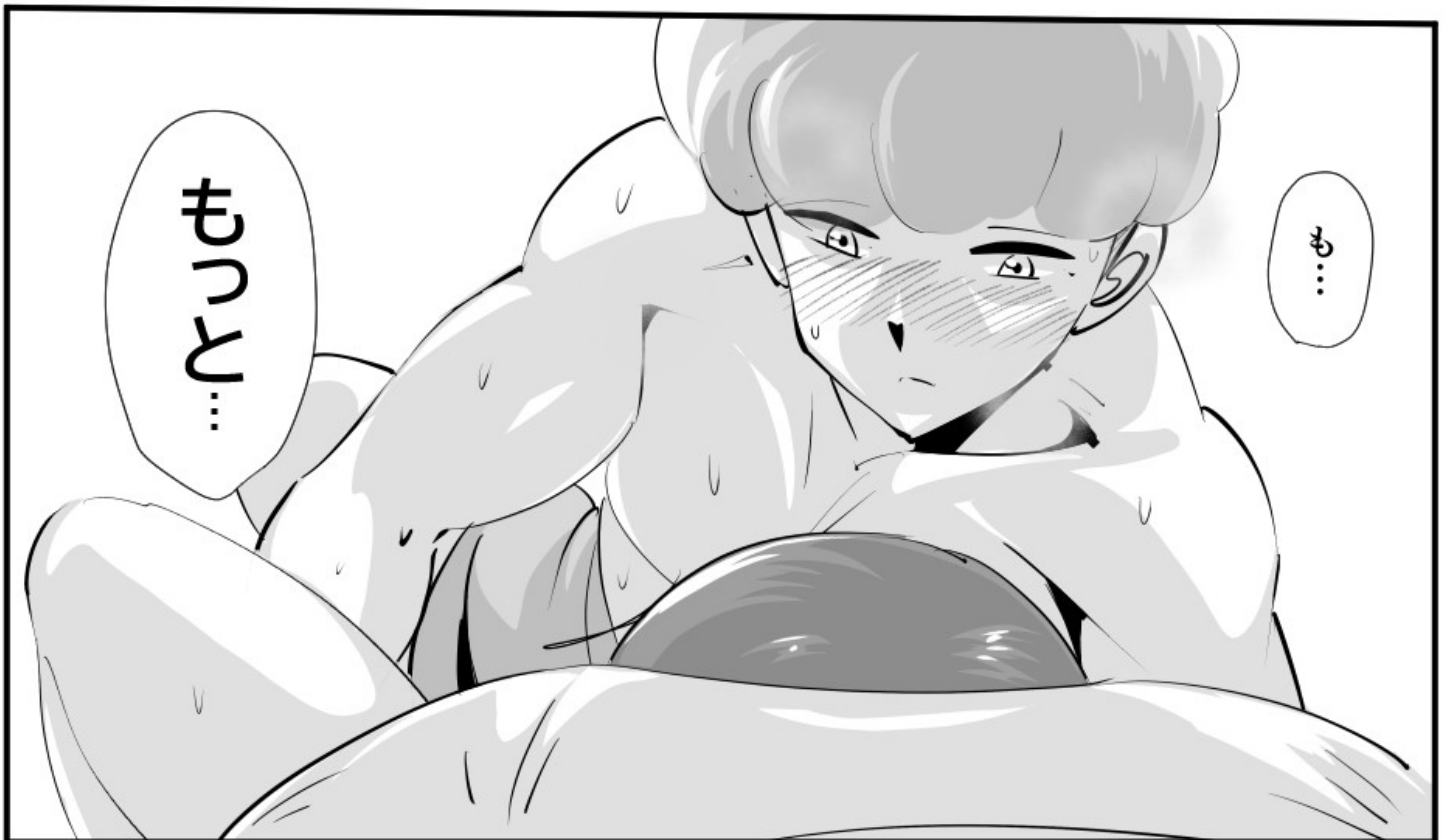
















あん♡

それ…♡

すごく
気持ち
良い…♡



うっ

あ♡

あ♡

うっ

あ♡



ぬちゅ

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

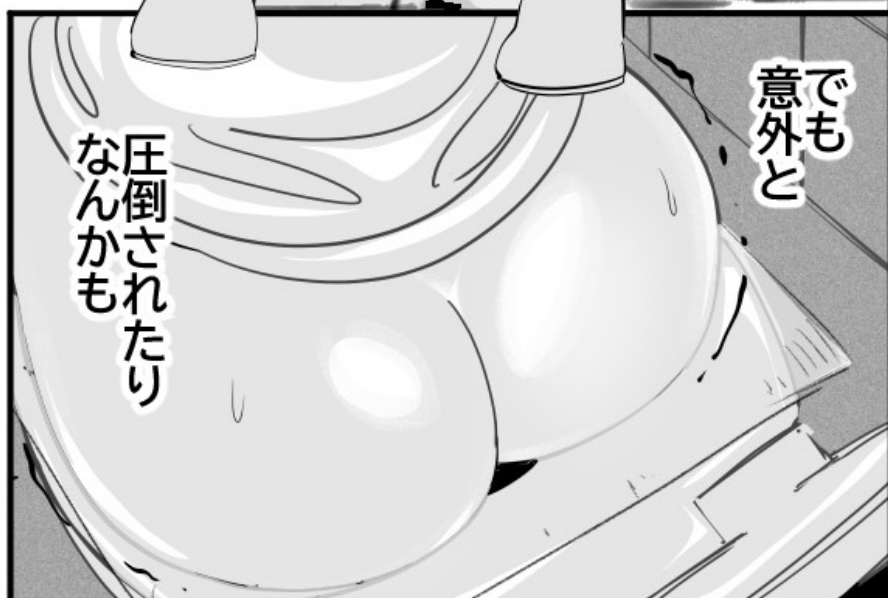
あ♡

あ♡

あ♡









違う!!

うそ!?

失礼
しますね♥

はい…♥

これが…

おちんちん♥

あ♥

これが
彼の…

おちんちん♥





ごめんな
さい...

中々...

す...
すみません...

あ...

は...

10





あん♡

あ♡

あ♡

あ♡

あん♡

あ♡

だめ♡

あ♡

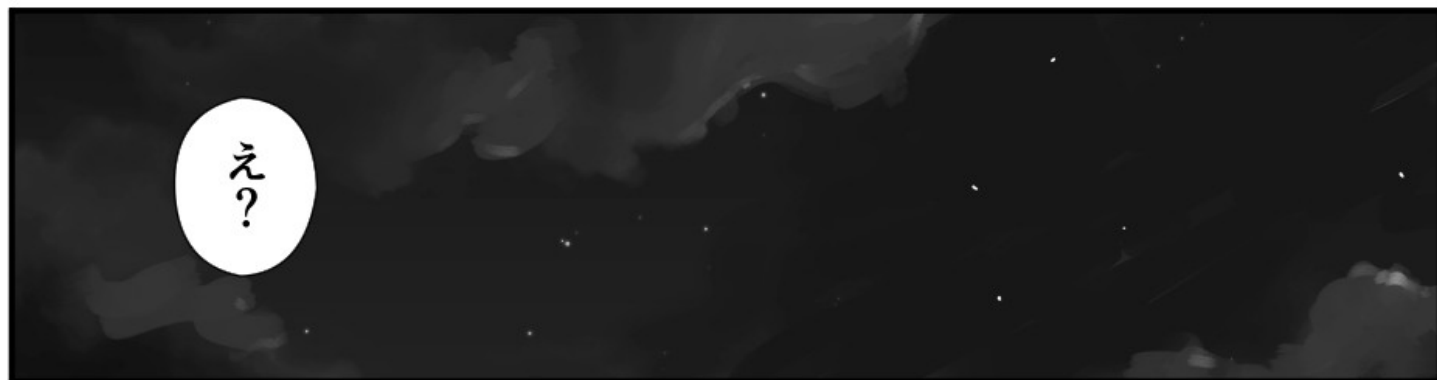
す〜

奥まで...

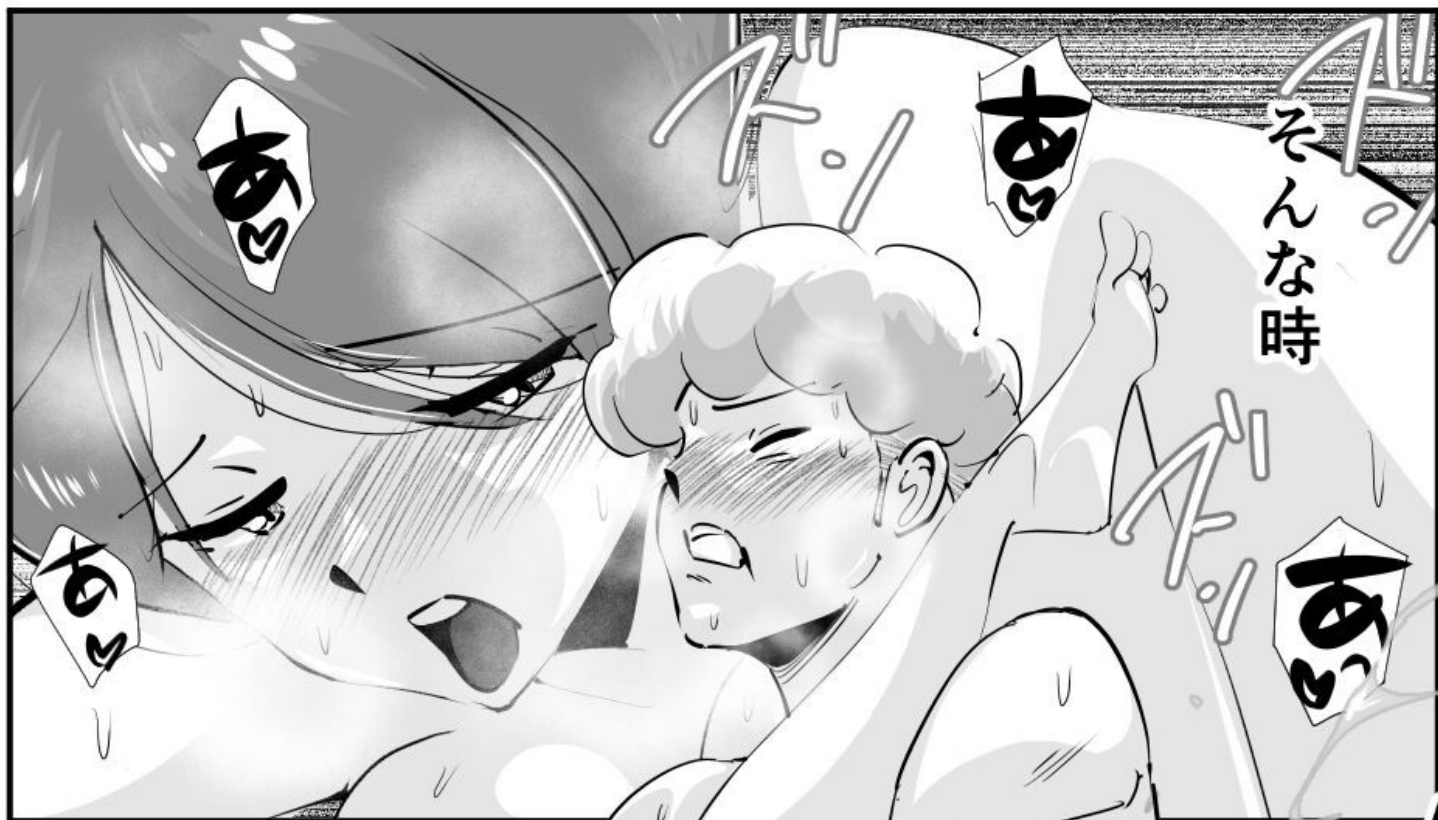
す〜

す〜











突然の訪問



しかも
その彼が



舞い上がって

しまいました



ごめんね...
ひろ君







えっ...!!?



すみません...

いつも...

いつも見ました





あーん

あ

あっ!!
ホントに!!

いっ

いっ

あ

あ

イクッ

あ!!

あ

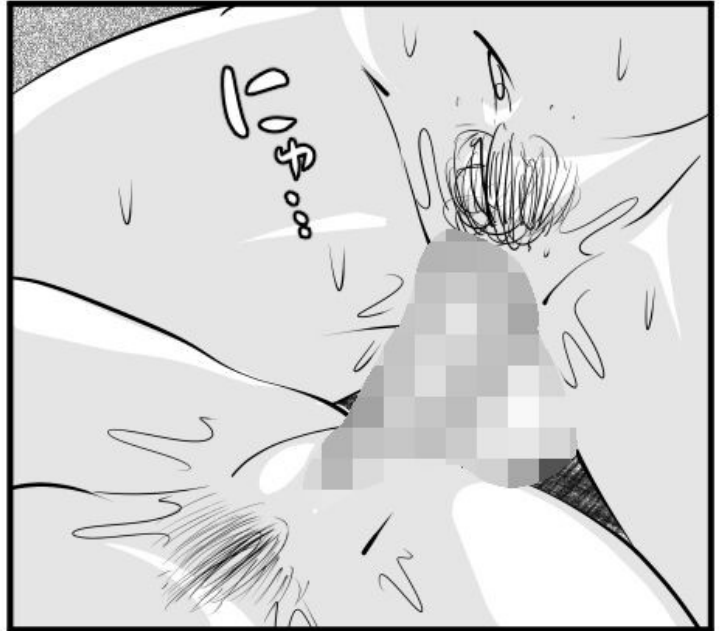
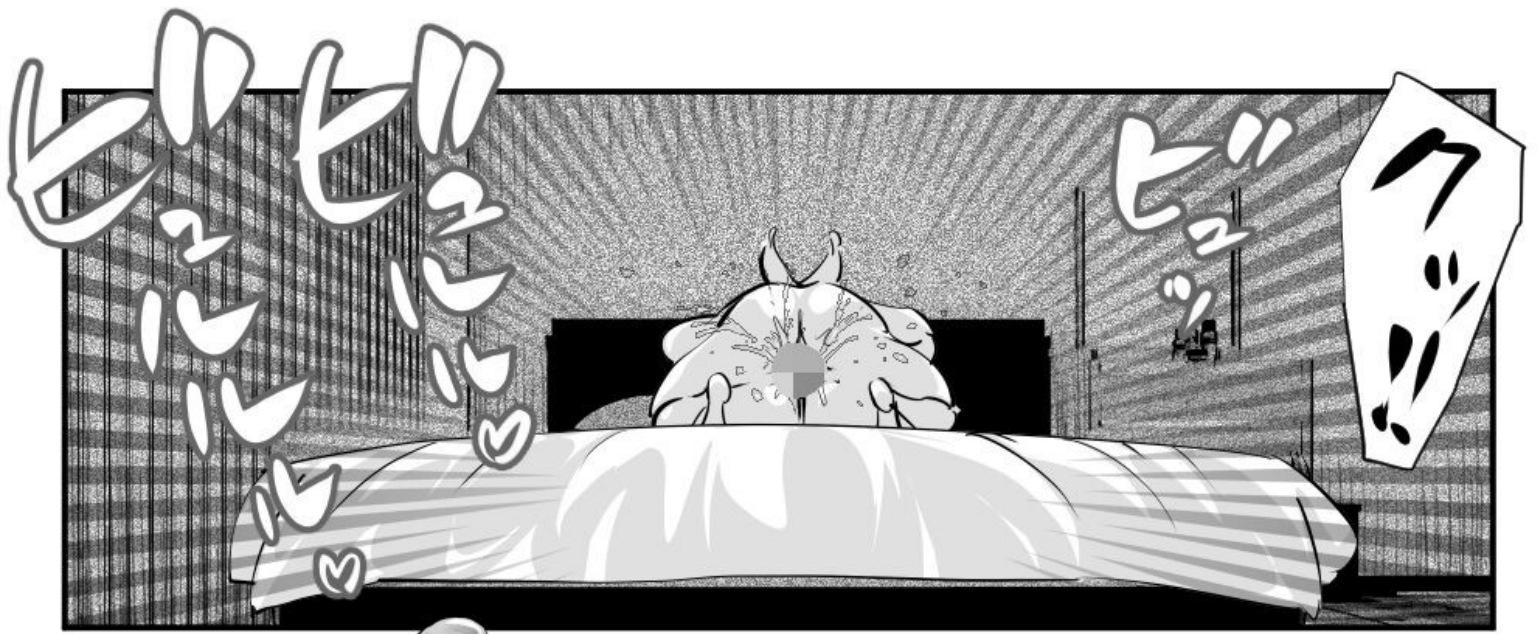
す

あ

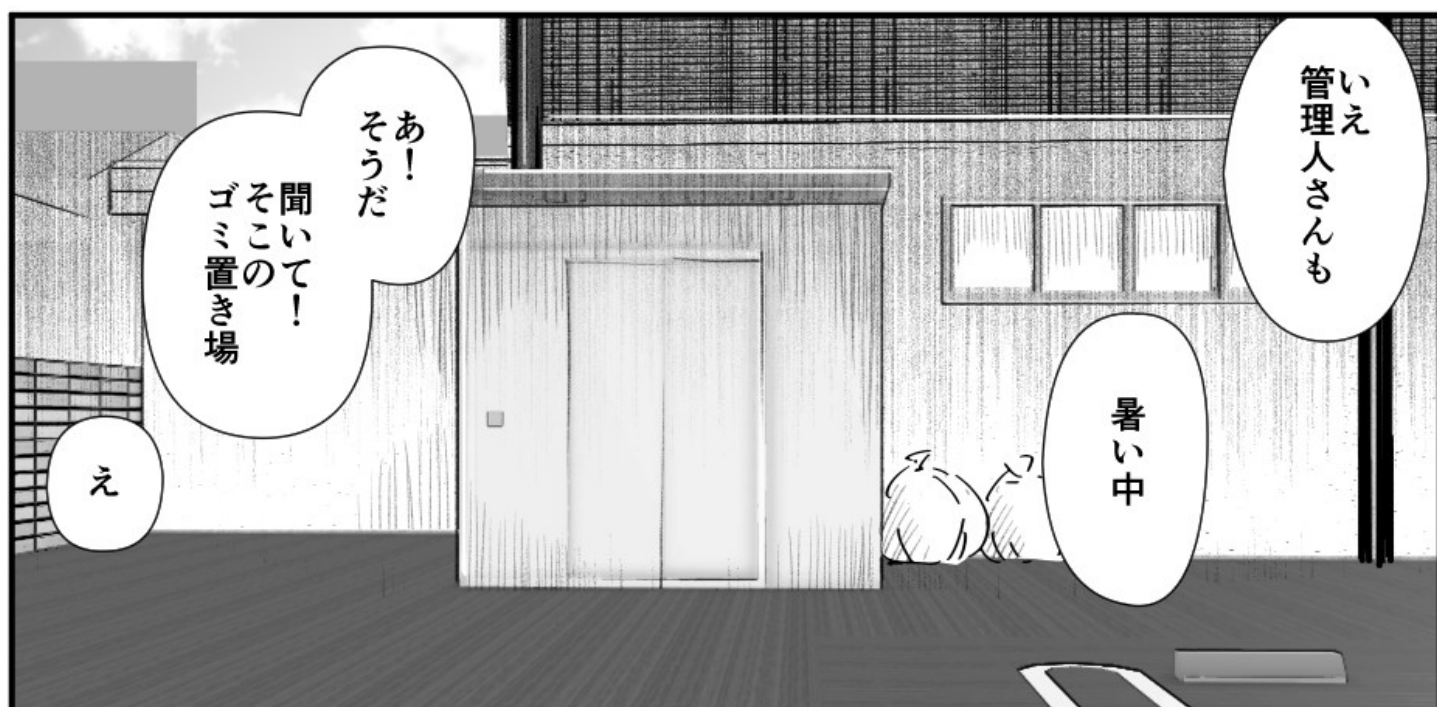
イクッ!!

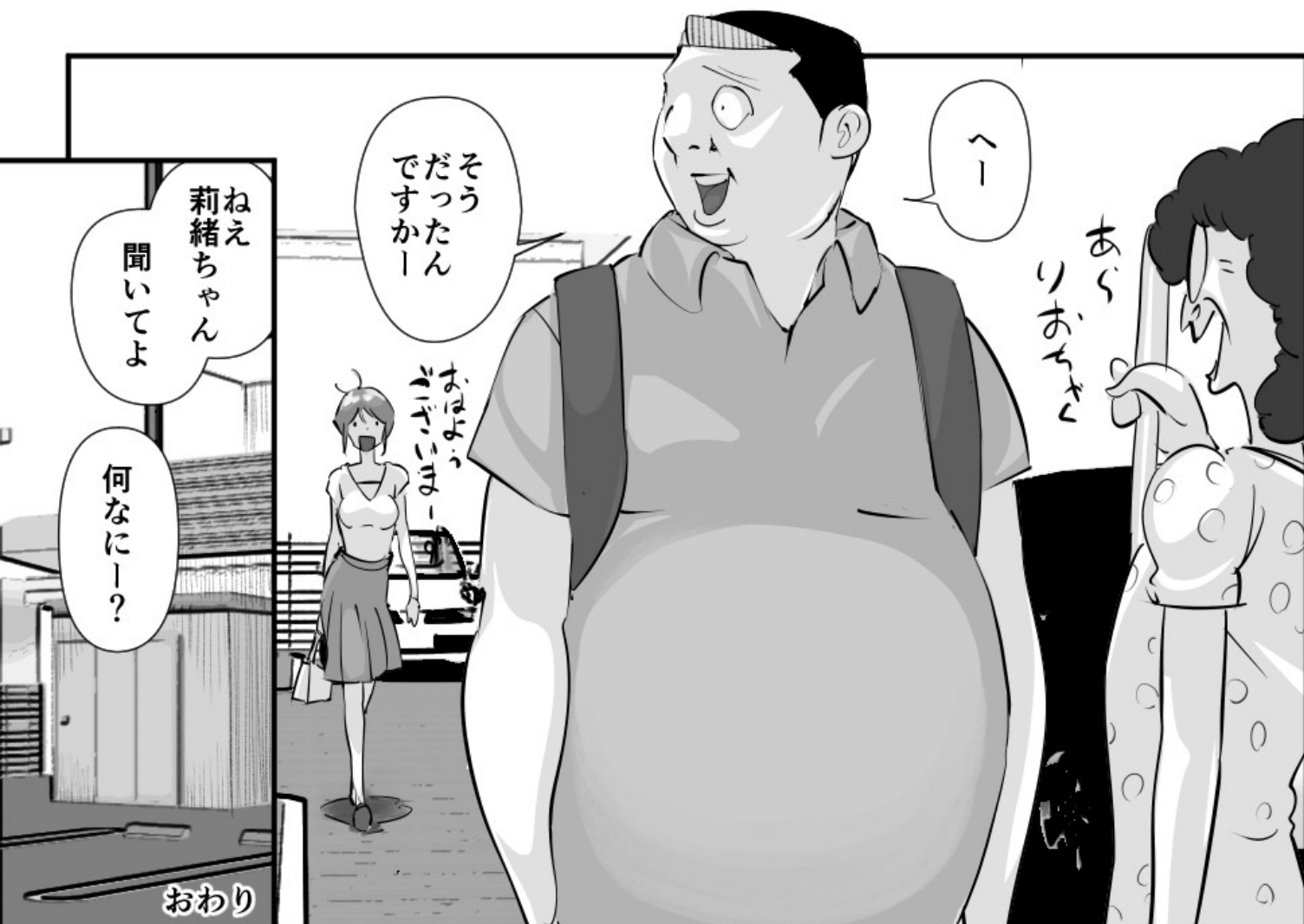
あっ!!

す









本作品はフィクションであり
実在の人物・個人・団体・企業・事件等とは一切関係ありません。

本書の全部あるいは一部を無断で
複製・配布・不特定多数が閲覧できる状態にするすべての行為を禁止します。
有償、無償に関わらず、第三者への譲渡を禁止します。